

愛媛大学

中井俊樹

くさび型カリキュラムは、教養教育から専門教育という順序ではなく、教養教育と専門教育のどちらも4年間を通じて履修することを旨とした配列の方法である。さらに、重要な概念を中核として何度も繰り返し学習するらせん型カリキュラムという配列の方法もある。

教育方法
何を学ばせるのかという教育内容に加えて、どのように学ばせるのかという教育方法もカリキュラムでは重要である。大学設置基準において講義、演習、実験、実習、実技といった授業形態の種類がある。1つの授業科目で講義と演習のように2つの方法を併用することもできる。授業形態によって1単位として認められるための授業時間が異なるので注意が必要である。

法令上の授業形態である講義は、必ずしも教員が説明して知識を伝達する授業でなければならぬわけではない。教員が説明して知識を伝達する

学生の履修の制御

大学のカリキュラムは単位制で運営されており、卒業時に必要単位数が満たされているかどうかで卒業が判定される。単位制においては、学生が望ましい履修を促すためのさまざまな工夫が求められる。

一つは、必修科目と選択科目の設定である。すべての学生に履修させた履修科目は必修科目に



カリキュラムの構成要素を理解する

〈下〉

部で一括募集をしたり、大学設置基準で大学の努力義務として示され、各年次にわたって学生が適切に履修科目を履修するための仕組みである。

各授業科目の配当年次を決めたり履修条件を設けたりすることができ

習するダブルメジャー、主専攻と副専攻を学習するメジャー・マイナーと呼ばれる制度をもつ国内の大学もある。

また、一度決まった専攻分野を変更したい学生もいる。そのような学生の希望に対応するため、成績、試験、面接などの審査によって転学部や転学科ができる制度を設けることもできる。

また、卒業までの年数も学生のニーズに合わせて活用される。一方で、大学設置基準において大学は卒業に必要な授業を自ら開設することが原則として定められている。

入学前に学生が志望する科や専攻が定まっている場合には細かな選抜枠、入学後に時間をかけて学生に所属学科や専攻を選択させたい場合には広い選抜枠が適している。後者の方法は、レイトスベ

学生が他機関で開講される授業を履修し、一定の範囲内で自大学の単位としてみなす単位互換制度は多くの大学において活用されている。単位互換制度は、個別の大学と協定を締結する方法と複数大学間でコンソーシアムなどを構成して協定を締結する方法がある。単位互換制度によって、学生に多様な教育内容を提供することができる。また、教育資源が有効に活用される。一方で、大学設置基準において大学は卒業に必要な授業を自ら開設することが原則として定められている。

学生の進む専攻分野の広さに対応した授業科目の編成によって、学生の幅広い学習を期待することができ

一方、学科学や専攻に配属されるわけではない。

日本の多くの大学では、学生が専攻分野を二つに絞ることが多いが、2つの専攻分野を学生が学習するカリキュラムも可能である。海外の大学のよいに、2つの主専攻を学

柔軟に対応することができ

特定の要件を満たせば、修業年限より短い期間で卒業を認める早期卒業の制度を取り入れることができる。一方、職業や家事に従事する学生が、個人の事情に応じて柔軟に修業年限を超える。それらのプログラムによって学生に幅広い学習や異文化を経験させることができる。

カリキュラムの改善は、教員間での継続的な対話と合意形成を踏まえて着実に進めていくべきものである。その第一歩は、カリキュラムの構成要素をすべての教員が理解しておくことだと言えよう。

国家資格の取得を目指すカリキュラムにおいては、必修科目が多くなる傾向がある。また、一定の範囲の科目群の中から何単位修得することが決められた選択必修科目を設定することもできる。

さらに、卒業単位に含まれない科目を設定することもできる。

学生が1年間または1学期に履修科目として登録することができる単位数の上限を定めるキヤッ

他機関の教育との連携が、カリキュラムにおいて進めることができる。

カリキュラムの改善へ